

バッテリーサーキュラーエコノミー への貢献

代表取締役社長
岡澤尊宏

HIOKI

HIOKI 長期経営方針 ビジョン2030 記者発表会

HIOKI[製品](#)[資料](#)[サポート](#)[購入・レンタル](#)[アフターサービス](#)[企業・IR・採用](#)[お問い合わせ](#)[e-友マイ](#)

[ホーム](#) > [お知らせ情報](#) > [トピックス他](#) > 経営方針説明会を開催 HIOKIの長期経営方針【ビジョン2030】を発表

重要なお知らせ

お知らせ情報

- 製品・技術
- 展示会・セミナー
- キャンペーン
- 経営財務

経営方針説明会を開催 HIOKIの長期経営方針【ビジョン2030】を発表

掲載年月日：2020年12月15日

HIOKI（日置電機株式会社：長野県上田市、代表取締役社長：細谷和俊）は、12月15日（火）10:00より、本社HIOKIホールにて経営方針の記者発表会を開催しました。

記者発表会は、来場・Web同時開催で行い、取締役専務執行役員の岡澤がHIOKIの今後10年の方向性を定めた【ビジョン2030】を発表しました。



ビジョン2030を発表する岡澤 ※

ビジョン2030

ミッション – 何で社会に貢献するのか –

電気計測を通してお客様の安全で有効なエネルギー活用を促進し、
社会の安心と発展に貢献する。

ビジョン – 10年後のありたい姿 –

「測る」の先へ。

HIOKI は、業界のフロントランナーとして「測る」を進化させ続け、
世界のお客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターに
なる。

「測る」の先へ。 ➡ 新たな測定・検査基準の創出

「測る」の先へ ビジョン2030

HIOKIは業界のフロントランナーとして
「測る」を進化させ続け
世界のお客様と共に持続可能な社会をつくる
ソリューションクリエイターを目指します



今後の方向性

電気エネルギーをインフラとして進展するあらゆる分野に展開



新しい社会システムを構成する重要市場に開発資源を集中する

代替エネルギー

バッテリー

ESS



車の電動化・電子化

EV/PHEV



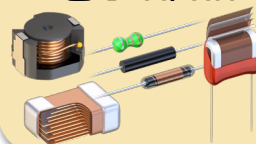
充電
インフラ

CAN
自動運転
ADAS



DXを構成するインフラ

電子部品



データ
センター

5G
基地局



UPS

電力配電系統(パワーグリッド)

社会の持続可能性について

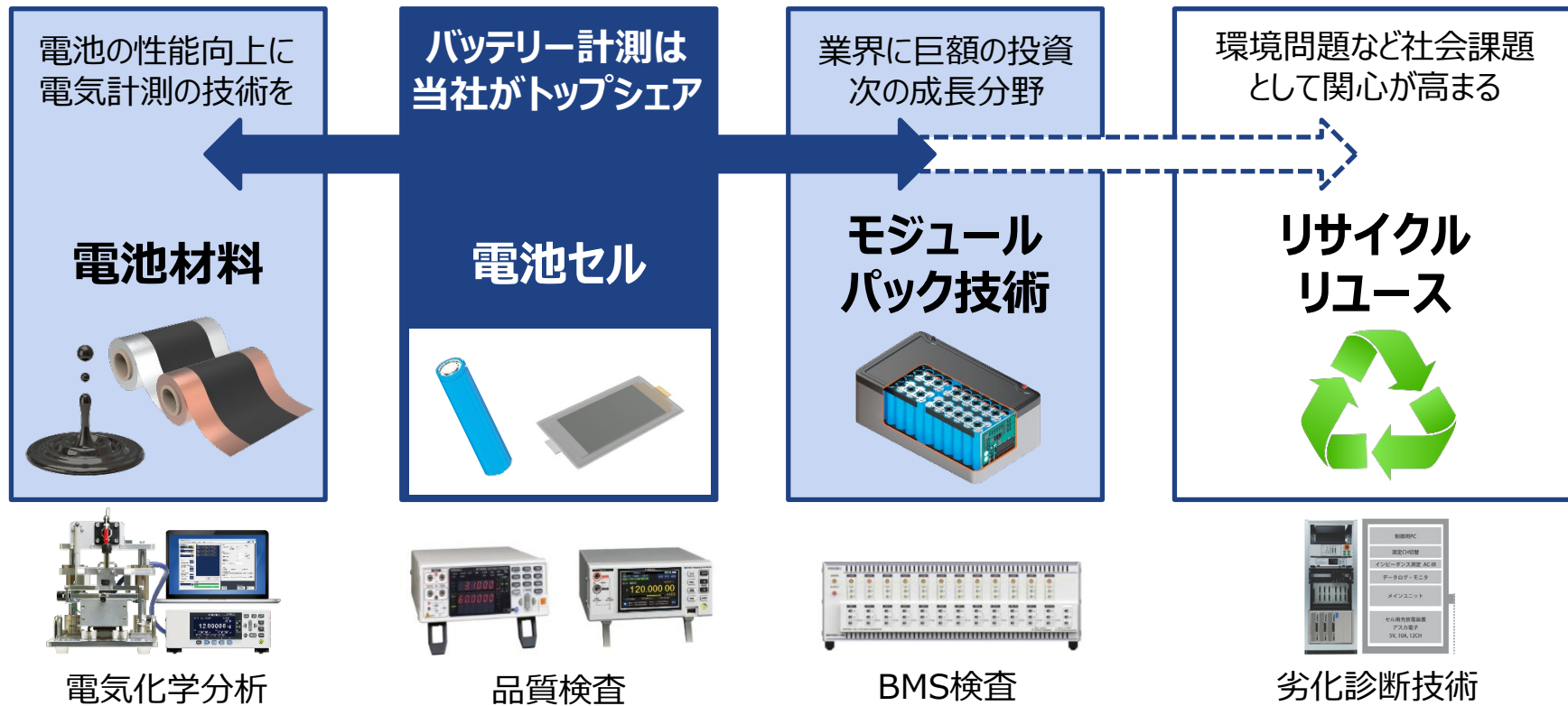
世界各国で脱炭素化の取り組み進む

	CO ₂ 削減 中間目標	CN*達成年
米国	2030年までに2005年比50～52%削減	2050年
中国	2030年までにGHGピークアウト	2060年
EU	2030年までに1990年比55%削減	2050年
英国	2035年までに1990年比78%削減	2050年
日本	2030年までに2013年比46%削減	2050年

【出典】 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
TSCトレンド COP26に向けたカーボンニュートラルに関する海外主要国（米・中・EU・英）の動向
<https://www.nedo.go.jp/content/100938612.pdf> CNに向けた各国のCO₂削減目標（8ページ）をもとに当社にて作成。

* CN：カーボンニュートラル

バッテリー ライフサイクルへの貢献



バッテリー計測ソリューション展開

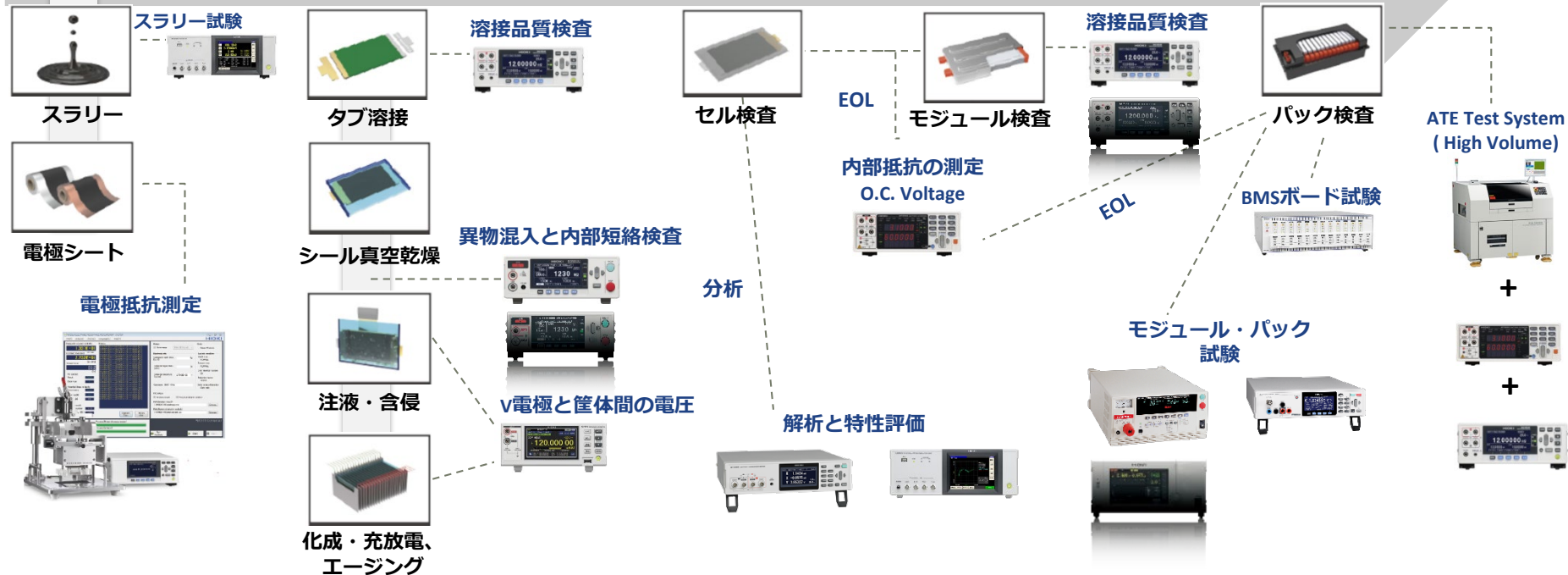
電池材料
製造

セル
製造・組み立て

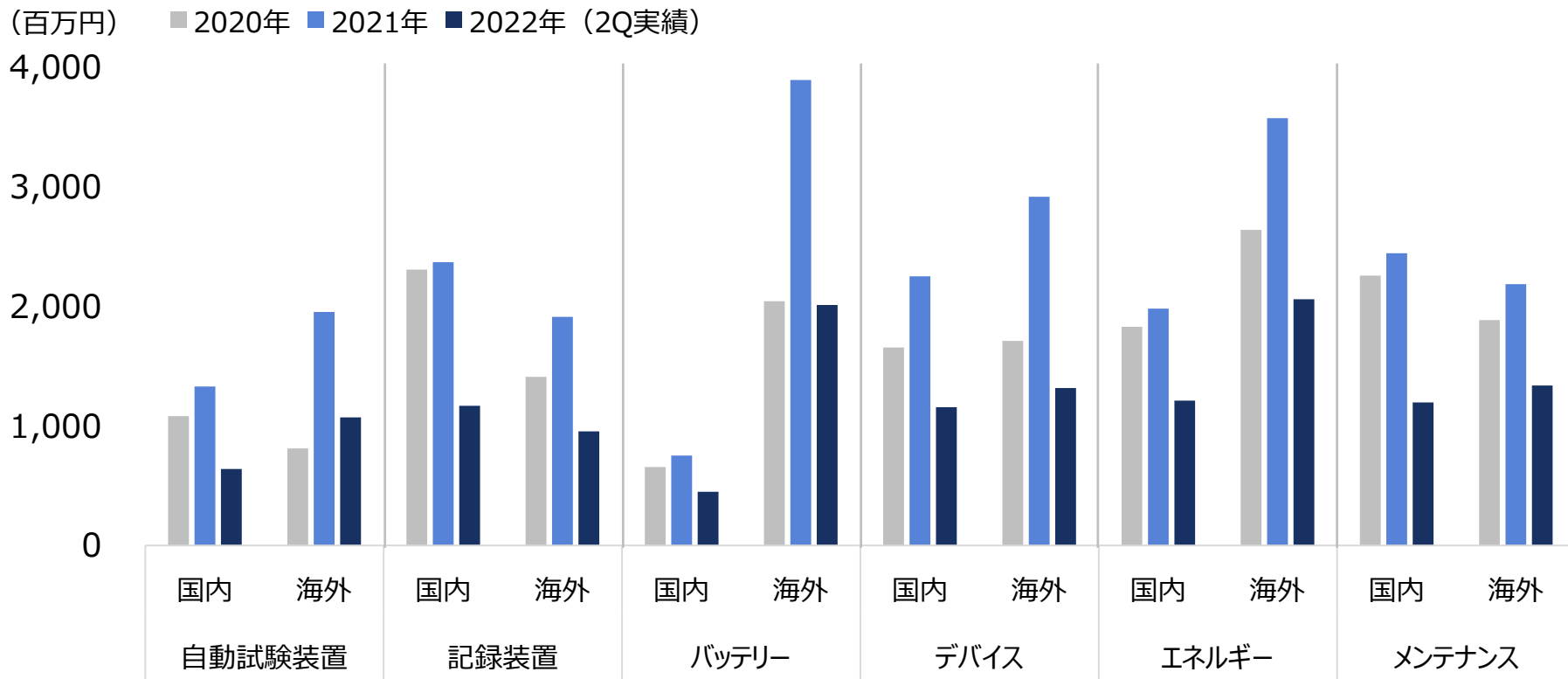
セル
完成品の性能検査

モジュール・パック
組み立て

モジュール・パック
性能検査



市場用途別の売上高実績



バッテリー計測におけるHIOKIの強み

- セルの安全性と品質を担保するバッテリーテスターは
デファクトスタンダード
- 車載バッテリーにおける**バリューチェーンの構築を牽引**
- バッテリーサーキュラーエコノミーに
不可欠な計測ラインアップが完成
- 36年の歴史で培った信頼、
グローバルトップメーカーとのパートナーシップ

当社のバッテリー計測の歴史



1996

3550 series
PORTABLE TYPE



2006

3554
PORTABLE TYPE



2016

BT3554-01
With Bluetooth

L2020
L-shaped probes

Commemorating the 36th Anniversary
of the HIOKI Battery Tester Series

36
years

1986

AC mΩ HITESTER
3225



1998

AC mΩ HITESTER
3560



2010

BATTERY HITESTER
BT3562, BT3563



2015

BATTERY
IMPEDANCE METER
BT4560



世界各国の法規制

世界各国で自動車の電動化を積極的に推進

	EVに関する法規制とロードマップ°	達成年
米国	インフレ削減法の可決、2023年から段階的に条件引上げ 北米中心のEVと電池の製造サプライチェーンの構築を目指す	2030年
米国 (各州)	カリフォルニア州、NY州が義務化へ、ほか15州も追従予測 新車販売の100%をBEV/PHEV/FCVにする	2035年
EU	新車販売の100%をBEV/FCVのみにする 2026年からPHEVのCO2排出量の計算方法を変更	2035年 (2026年)
中国	2035年までに新車販売の50%をBEV/PHEV/FCVにする 残りの50%をHEVにする	2035年

【出典】各国、各地域の法規をもとに当社にて作成。

自動車メーカー各社のEV計画

各国の法規制に対して前倒しで対応する動き

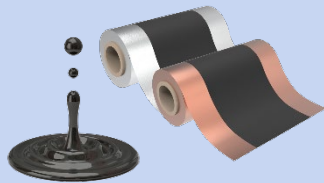
	新車販売におけるEV計画	達成年
Volkswagen	世界販売の50%をBEVにする 欧州で70%以上、北米で55%以上、中国で50%以上	2030年
GM	世界販売の100%をBEVにする	2035年
Stellantis	BEV/PHEVの販売を欧州で70%以上、米国で40%以上 (BEVの比率を80%以上とする)	2030年
ルノー	欧州販売の100%をBEVにする	2030年
現代自動車	世界販売の100%をBEV/FCVにする	2030年
ホンダ	世界販売の100%をBEV/FCVにする 2035年に80%以上がマイルストーンとなる	2040年 (2035年)

【出典】各社公表資料をもとに当社にて作成。

バッテリー サークュラーエコノミーへの貢献

電池の性能向上に
電気計測の技術を

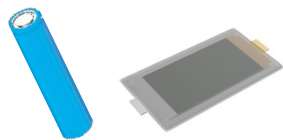
電池材料



電気化学分析

バッテリー計測は
当社がトップシェア

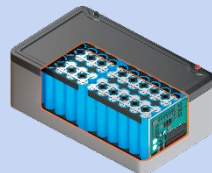
電池セル



品質検査

業界に巨額の投資
次の成長分野

モジュール パック技術



BMS検査

環境問題など社会課題
として関心が高まる

リビルド リユース リサイクル

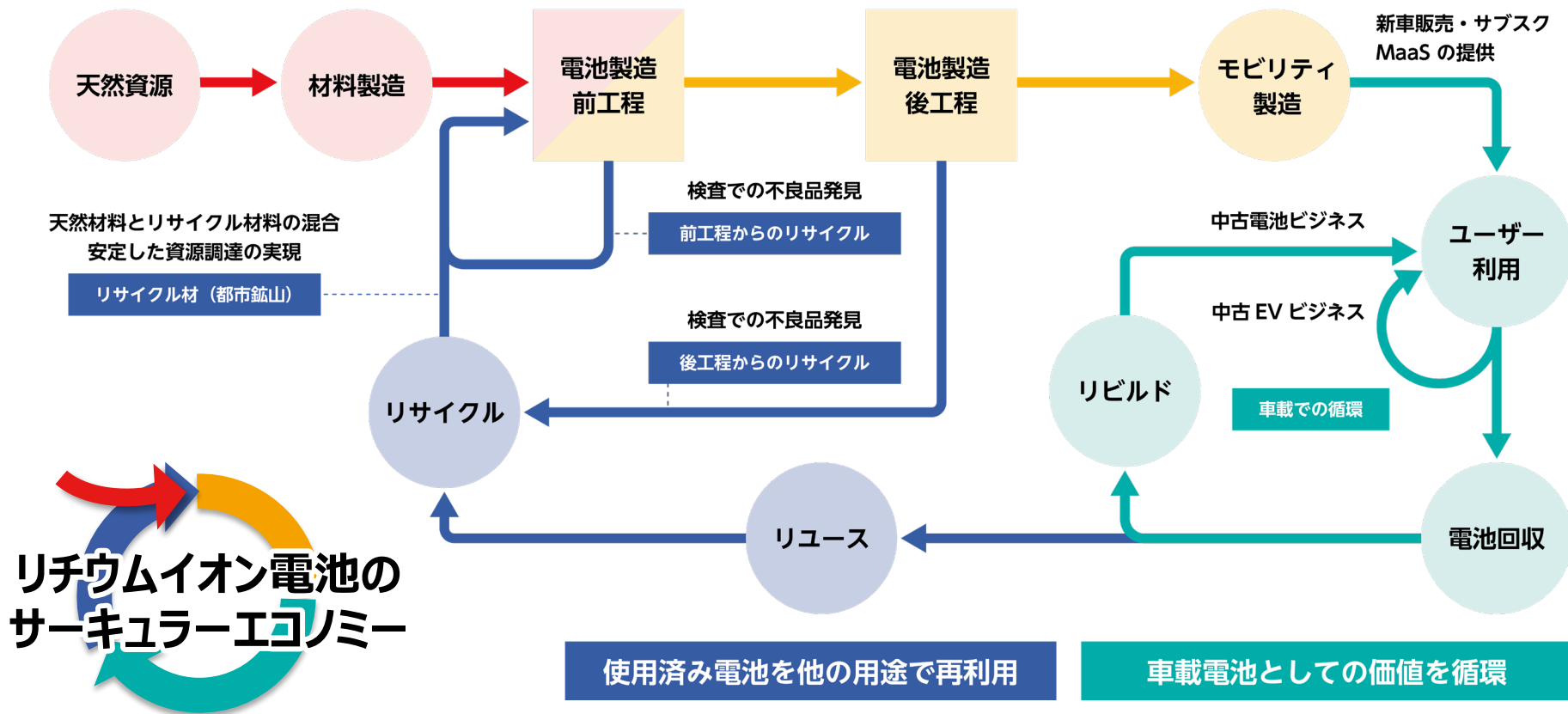


劣化診断技術

電池製造の材料工程

電池製造の組立工程

電動車の製造



高性能な電池をつくるために

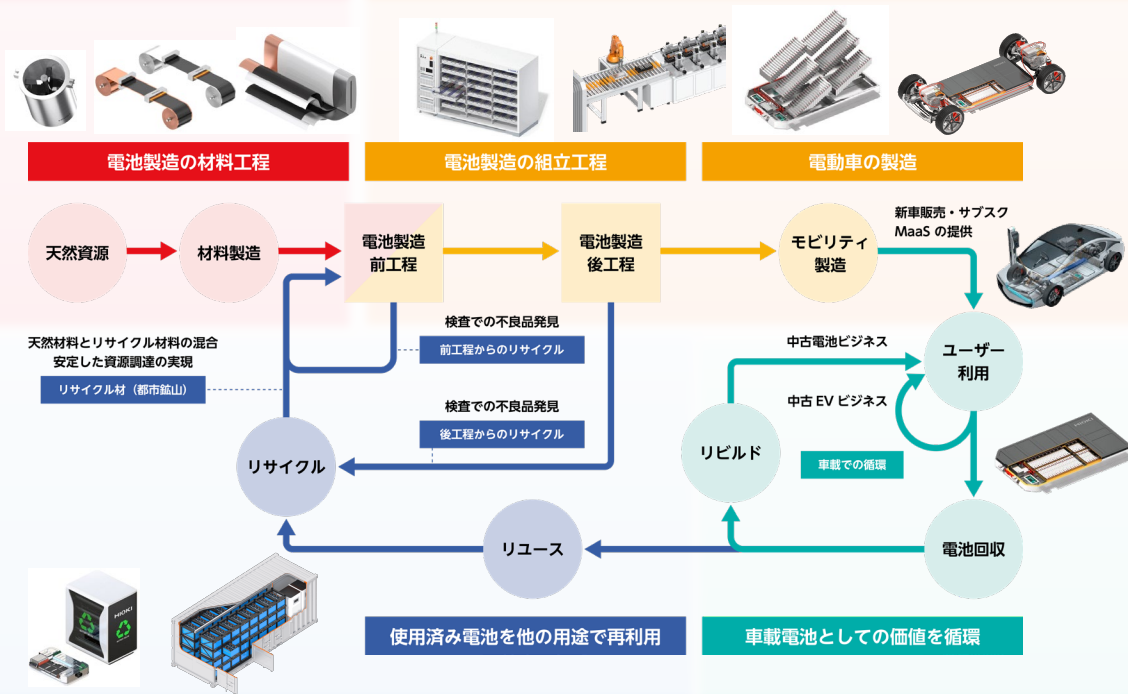
- 最適な製造プロセスを判断するための世界初の測定器を開発
- LIBTECに加入

- コンソーシアムへの参加
- 異業種との協業

技術と社会をつなぐために

安全で高品質な電池を供給するために

- 電池の安全検査3兄弟を開発



- 車載状態のバッテリーパックを直接計測する新技術を開発

資源の有効活用のために

高性能な電池をつくるために

- 急速充電や長期使用に耐えられる高性能電池は高度な製造プロセスが必要

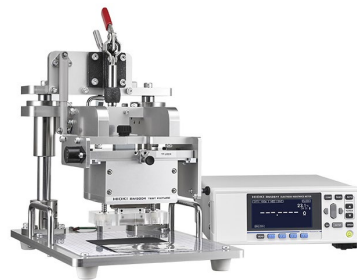
最適な製造プロセスを判断するための世界初の測定器

技術者の経験に依存したプロセス管理から、
世界初の技術により数値によるプロセス管理を実現



GOOD DESIGN AWARD 2022

スラリーの状態測定



電極の抵抗測定

LIBTECに加入



LIBTECホームページ（理事長 吉野彰博士）

LIBTEC：技術研究組合リチウムイオン電池材料評価センター

全固体電池などの次世代電池や、CO2を大幅に削減する次世代製造プロセスを実現するための測定器の開発も進行中

安全で高品質な電池を供給するために

- EV向け電池の大量生産の技術が確立し、課題は電池の安全性と品質向上の段階へ移行
- 安心して長く使える電池の安定供給がバッテリーサーキュラーエコノミーの実現に不可欠

今まで見えなかったバッテリーの潜在不良を検出 -安全検査3兄弟-

これまで生産ラインの検査で見逃していた電池の潜在不良を発見し、
電池火災と廃棄電池の発生を防止



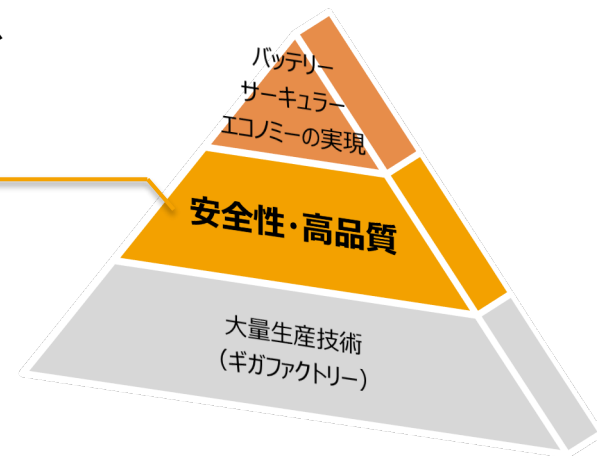
絶縁抵抗試験器
BT5525



溶接抵抗計
RM3546



DC 耐電圧絶縁抵抗試験器
ST5680

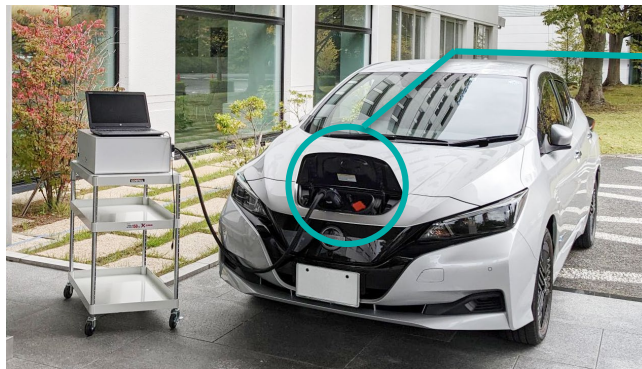


資源の有効活用のために

- EV用の電池には希少な材料と多くのエネルギーが使われており、資源を有効活用するためには電池をできるだけ長く使うためのバリューチェーンが不可欠
- バリューチェーンの一つである中古車市場では、価値判断の基準が無いため中古EVの価値は低く見積もられ、市場はほとんど機能していない

車に搭載された状態のバッテリーパックを直接計測する新技術を開発

電池状態を把握する計測技術によって共通指標による価値判断ができるとともに、安心して長期間使うことが可能に



EVやPHEV の急速充電口を通じて、簡便に計測



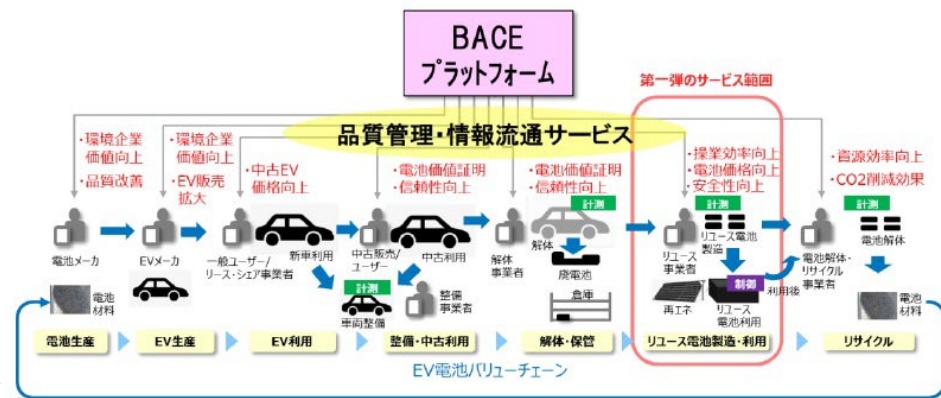
技術と社会をつなぐために

- EV用の電池は中古車やリビルドで車載用途として使い続けたのち、定置型の蓄電システムなどへのリユースが考えられている
- 電池リユースは新市場のため、普及させるには新しいバリューチェーンの構築が必要

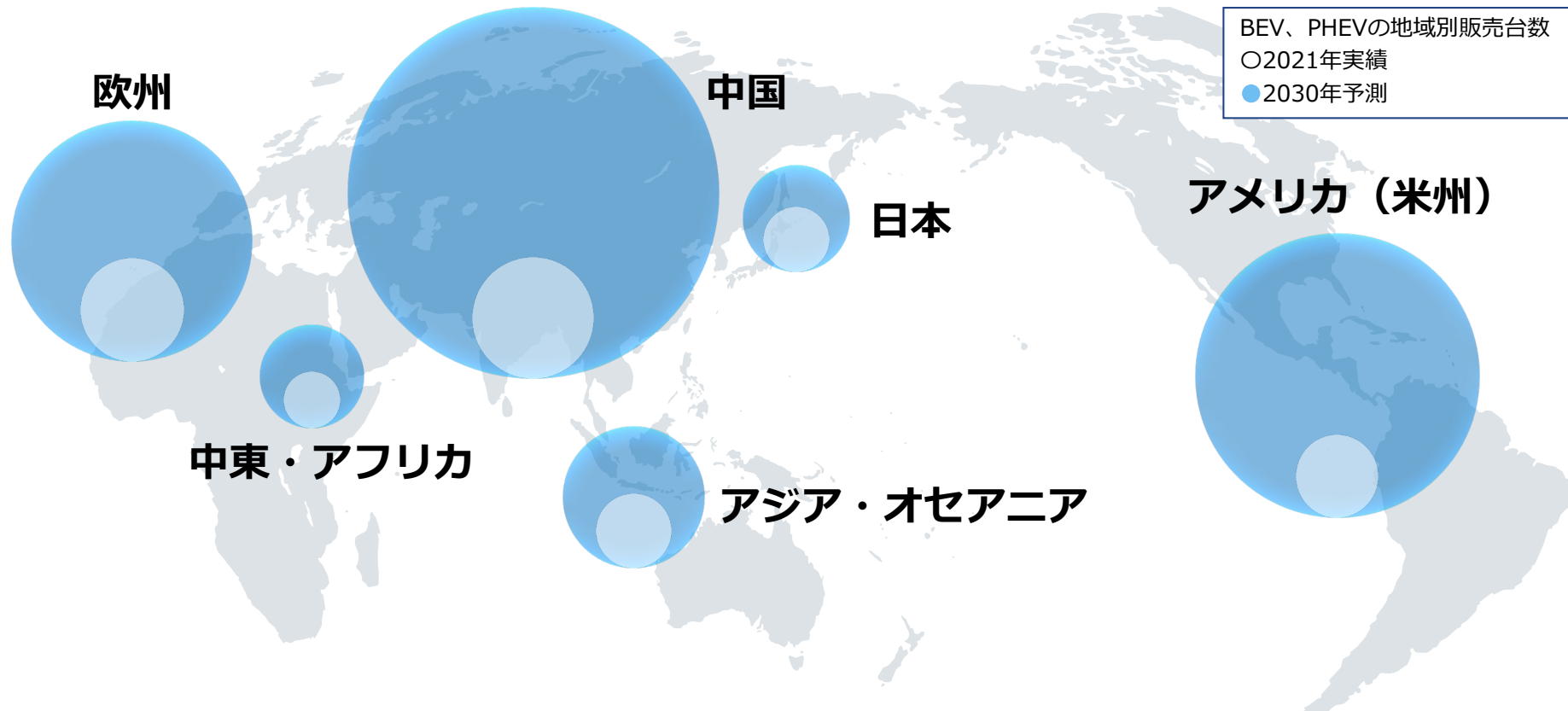
異業種との協業により電池リユースを普及させるための取り組みを推進

日本総研様主催のBattery Circular Ecosystemコンソーシアムへの参加や、金融機関や商社など取り組みを推進

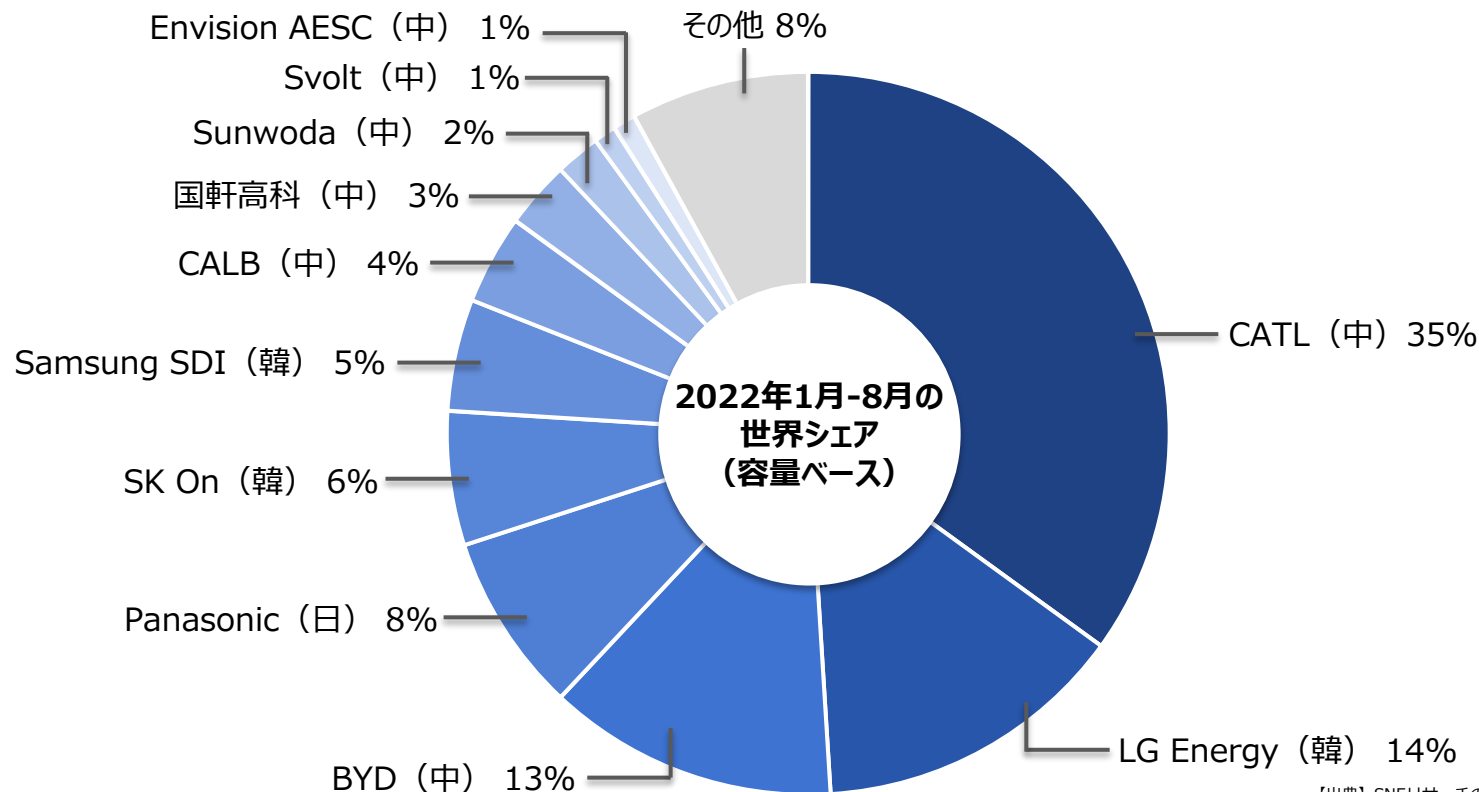
【出典】日本総研ホームページ
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102307>



2030年 EV販売台数予測



主要バッテリーメーカー



【出典】SNEリサーチのデータをもとに当社にて作成。

グローバルに展開するネットワーク

